

## 「少子高齢化と税金のこれから」

3年1組 ○○○○

近年、日本では少子高齢化が進み、若者の税金の負担が大きくなっている。一方、高齢者世帯の半分以上が年金収入だけで生活しているため、年金制度は欠かせないものである。若者の負担は今後さらに大きくなり、2050年には約1.3人で一人の高齢者を支えることになるの見込まれている。こうして、若者の負担ばかりが目につく中、今年73歳になる私の祖母は介護施設の厨房で働いている。私の祖母は調理関係の仕事を定年退職した後、今の介護施設で働き始めた。厨房での作業は暑く、手の節々が痛む中で、高齢者に食事を提供している。食べることは、利用者の楽しみであり、生活の基本である。食事を通して喜びを与えている祖母を、私は尊敬している。

日本では、年金を65歳から受け取ることができる。私はこの作文を書くにあたり、年金を貰いながら働く私の祖母に、年金を貰うことでどうなるのか、問題点は何か、若者の負担を減らすにはどうすれば良いのかを尋ねた。インタビューから私は、年金を貰うことで、安心できる生活を送れるということが分かった。また、厚生年金と国民年金では貰える額が大きく違い、国民年金だけでは十分に生活できないことを知った。そのため、高齢者になっても働ける場所を作ることが重要であると思う。元気で働ける高齢者が働く場所をつくれれば、若者の負担も減り、健康を維持できる高齢者も増える

と思う。

少子高齢化を解決するには、莫大な年月が必要である。しかし、少しでも今いる国民全員が暮らしやすい世界にするためには、今からでもできることがあると思う。例えば、高齢者も働ける場所、働きやすい労働環境を作ることだ。高齢者が働くようになることで、企業側では、長年の経験やスキルに基づくノウハウを活用できるようになる。また、幅広い年齢層の意見を取り入れ、高齢者のためのサービスが充実することも考えられる。一方、高齢者は働く上でのサポートが必要であったり、多様な働き方を認める必要がある。これらを理解した上で、働きやすい環境をつくること、できない部分をフォローし合うことが大切であると思う。

少子高齢化が進み、若者の負担が増えていく日本で今からできることは高齢者が働く場所を増やし、働きやすい環境をつくることである。今の私たちにできることは、税金を大切に使うことだと思う。直接的に税金を使うことはできないが、学校の教科書や公共の施設などを長く、綺麗に使うことは大切なことだと思う。だから私はこれから、税金の使い道を知り、より暮らしやすい社会を作るため、その時できることをしていきたいと思う。